

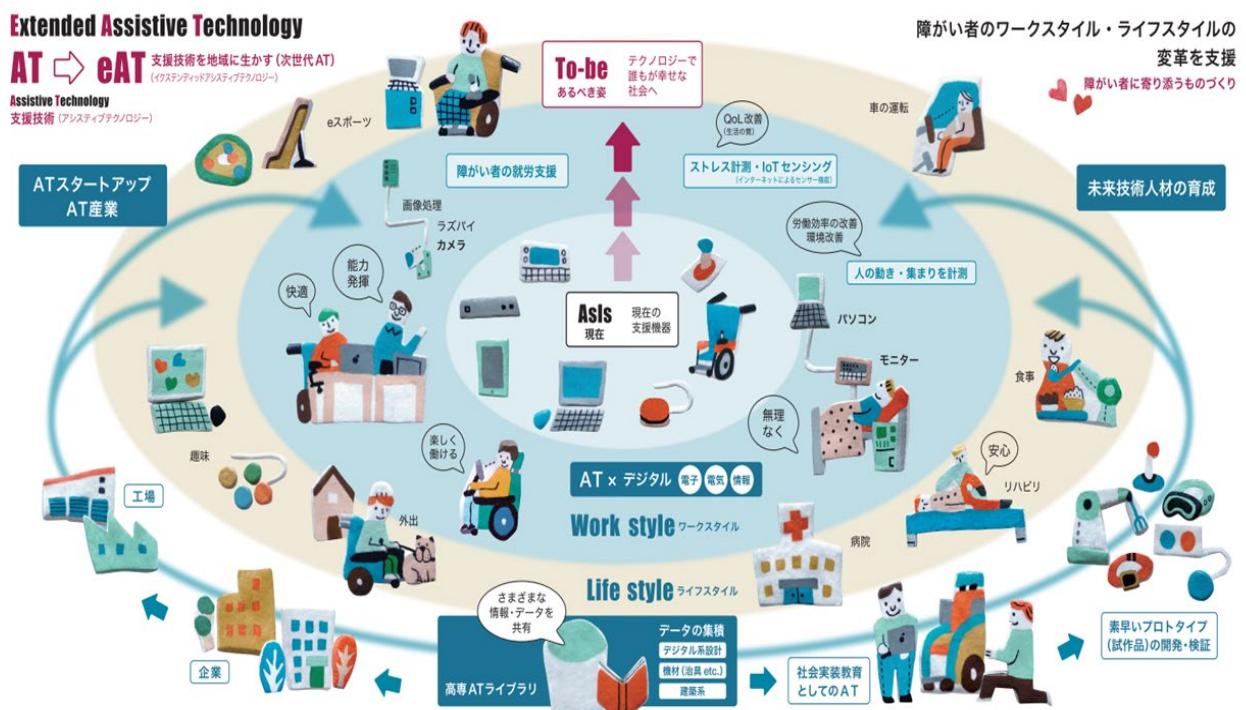


KOSEN-ATネットワーク

(熊本県合志市)

【受賞理由】

- 高専という実践重視・技術教育重視の場を活用し、学生・教員が協働してAT技術(支援技術(アシスティブテクノロジー))を学び、創り出す経験を得られている。
- 全国規模のネットワーク化により、各高専の知見・設備・人材を共有、補完しながら活動することにより、単校では取り組みにくい地域・自治体連携、产学研官協働が可能となっている点を評価。
- 教育機関発の取組としては極めて社会接続度が高く、教育・研究・地域貢献の三位一体の取組を実現している点を評価。



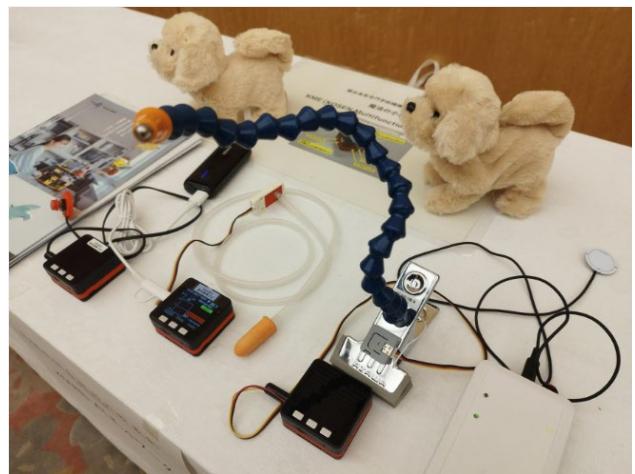
KOSEN-ATネットワークが目指すAT(アシスティブテクノロジー)社会構想

【団体概要】

- 2012年9月、全国の高専連携による福祉機器の高度化を目指し、KOSEN-ATの母体となる「全国KOSEN福祉情報教育ネットワーク(主幹校:熊本高専)」を発足。
- その後、特別支援教育総合研究所との連携により、特別支援教育におけるDX化の対応として、全国の高専が連携し、研究開発を開始。
- 全国約51高専を5ブロックに分け、福祉研究のハブとなる函館(北海道)、仙台(宮城県)、富山(富山県)、長野(長野県)、徳山(山口県)、新居浜(愛媛県)、熊本(熊本県)の7校が基幹高専として連携し、各ブロック間で福祉教育コンテンツ開発や地域の支援学校や医療機関とのセミナー開催を行っている。

【功績・功労】

- 各地の高専が具体的な機器(例:義肢・車椅子補助機構・リハビリ支援装置など)開発を実施している。「Japan ATフォーラム」などで実物発表・評価・共同改良が行われており、具体的な成果として、「研究成果」段階ではあるものの、地域福祉施設や自治体への導入例・国際発表もある。
- 全国約51高専が連携する仕組みのため、地域格差を超えた水平展開が可能であり、高専教育の中に「社会課題解決型の技術教育」という意識を浸透させるきっかけにもなっている。



視線入力スイッチを用いたe-ボッチャの普及

特別支援教育に利用可能な支援教材の開発